インフォメーション

問い合せ・申込み：仙台市市民活動サポートセンター
TEL 022-212-3010／FAX 022-268-4042　Mail sendai@sapo-sen.jp

奇数月最終金曜の夜はサポセンに集合!
3月のサポセン フライデー

日　時：3月27日（金）19:00～20:00
（18:30開場・入退場自由・申込不要）
会　場：仙台市市民活動サポートセンター
1Fマチノワひろば
参加無料・ソフトドリンク飲み放題・駄菓子食べ放題
当たり年は「虎年」「兎年」ですが、当たり年以外の方も参加できます。
サポセンには、地域の課題解決や魅力向上に取り組む人たちや、それを支える市民の皆さんが来館しています。そんなサポセンユーザー（来館者）の皆さんが、気軽に集まり、交流できる場です。市民活動団体や町内会、教育機関、行政や外郭団体、企業に所属されている方など、サポセンのヘビーユーザーから、まだサポセンに入ったことの無い方まで、地域のことに関心がある人ならどなたでも参加できます。

自分のローカルメディアコンパスを体験しよう！
-自分の情報発信指針をつくる-

イチオシ!

日　時：3月28日（土）14:00～16:00（13:30開場）
交流会 16:00～17:00（自由参加）
会　場：仙台市市民活動サポートセンター　地下1階　市民活動シアター
定　員：30人
参加費：無料
内　容：誰もがメディアになれる時代、地域の課題解決や魅力発信のために各々のメディアやSNSで様々な情報が発信されています。
横浜に拠点を置くNPO法人森ノオトが開発したメディアコンパスカードは、現場で起きたたくさんの「失敗談」や「経験談」から情報発信について学ぶカードです。発信者自身のコンパス（羅針盤）をつくるワークショップを体験し今後の活動に活かしてみませんか。
対　象：市民ライター、ローカルメディアを運営している人、ローカルメディアに関心がある人、地域のために何か自分で発信したいと考えている人、市民活動団体の広報担当者など。
申込み：メールでお申込みの場合は、件名を「メディアコンパス」として、氏名、電話番号、質問事項（あれば）をお送りください。

ゲスト：NPO法人森ノオト
理事長 北原まどかさん

サポセンスタッフから

マチノワひろば　図書コーナーに新着図書が届きました!

NPOの基礎知識やNPO法人立ち上げに役立つ本、まちづくりのヒントになるものや人権について考えさせられる本まで、様々な新着図書を取り揃えました。図書コーナーには並べきれない開架図書のリストもあります。なにか書籍をお探しの場合はスタッフまでお気軽にお声がけください。一度に借りられる図書は2冊まで。貸出期間は2週間です。図書貸出カードをまだお持ちでない方は、身分証明書のご提示でその場で発行できます。ぜひご利用ください。（鈴木）

つながる つなげる サポセン

仙台市市民活動サポートセンターとは

様々な分野の市民活動、ボランティア活動の支援施設です。「自分たちのまちをもっと良くしたい」。そんな市民の自発的な活動を応援します。

ご相談ください

ボランティア活動をしたい／団体を立ち上げたい／組織運営の悩みを解決したい／他の団体や他のセクターと連携したい／自分のスキルを地域や社会に役立てたい…

今月の休館日 3月11日（水）、25日（水）

開館時間	月曜日～土曜日 9:00-22:00
	日曜日・祝日 9:00-18:00
休館日	毎月第2・第4水曜日（祝日の場合は翌日木曜日）年末年始

〒980-0811　仙台市青葉区一番町四丁目1-3
TEL 022-212-3010　FAX 022-268-4042
地下鉄南北線「広瀬通駅」西5番出口すぐ／地下鉄東西線「青葉通一番町駅」北1番出口から徒歩6分
［HP］https://www.sapo-sen.jp ［Blog］https://blog.canpan.info/fukkou/ ［Twitter］@SCSC4CA

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。［指定管理期間2015年4月1日～2020年3月31日］

市民ライターが、仙台の市民活動団体やワクワクビトを取材しています！
▶市民ライター
https://blog.canpan.info/fukkou/category_23/1

▶「ぱれっと」バックナンバーはホームページからダウンロードできます。
▶ぱれっとに関するご意見をお寄せください。

［ぱれっと読者アンケート］サポセンホームページからアクセスいただくか、携帯電話等で2次元バーコードを読み取ってご利用ください。

発行	仙台市市民活動サポートセンター
発行日	2020年3月1日
編集	特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター
デザイン	PEACE Inc.
編集人	太田貴　菅野祥子　松村翔子　水原のぞみ　小田嶋くるみ　小林正夫
発行部数	3000部
配布場所	市内公共施設や行政窓口、市内一部店舗、市内外の支援施設

ぱれっと 3

仙台市市民活動サポートセンター通信 ぱれっと　2020 No.247

“ぱれっと”には、仙台市市民活動サポートセンター（サポセン）にいろいろな人が集まり、
それぞれの色（個性）が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく。そんな願いがこめられています。

仙台をワクワクさせる人物をご紹介します
今月のワクワクビト

一般社団法人 ReRoots 副代表
二木（にき） 洸行（ひろゆき）さん（28）

魅力ある農村を次世代に引き継いでいきたい

二木洸行さんは、若林区沿岸部の津波被災地で「復旧から復興へ、そして地域おこしへ」をコンセプトに、農業とコミュニティの再生を目指す一般社団法人ReRootsで副代表を務めています。被災した農地の野菜を消費者に届けようと受託販売をしたり、農家に教わり野菜づくりをしたり、農村の基盤となる農業を再生させるべく、販路拡大に日々汗を流します。
出身は大阪府。仙台市内の大学への入学を控えていた2011年3月、震災が発生しました。入学後、津波被害を目の当たりにし、ReRootがコーディネートしていた復旧ボランティアに尽力。がれき撤去、農業用水の泥かきをする横で、野菜を植え、育てようとする農家の姿に二木さんは胸を熱くしました。「この土地の人々を支えたい」と、同団体に就職。「気が付けば若林の風土、人々の生き方そのものに惹かれていた」と話します。
震災から9年。復興期を終え、農業法人部門を立ち上げ、今後は地域おこしに力を入れます。「地域住民と連携しながら農村の魅力を発信し、この先も農村を持続させることに力を尽くしたい」と思いを新たにします。

取材・文　市民ライター 平塚千絵

一般社団法人 ReRoots

TEL 022-762-8211　Mail reroots311@yahoo.co.jp
東日本大震災で甚大な被害にあった、仙台市若林区の農地復旧ボランティアから始まり、現在は「農業再生」「農村コミュニティ再生」の二部門で構成。農業再生部門では、農園での野菜作り、都市部での移動販売などを行い、農家との信頼関係を築きながら、新規就農者育成や都市部への販売ルート形成を目標としています。二木さんは農業再生部門で主に販売を担当。活動を共にする学生ボランティアのマネジメント業務も担っています。

特集　未災地で芽吹く、東北で培われた防災の種
～本音で話し合うことで実現する協働～

突撃レポート！　乱世に暗躍した忍者
宮城にも実在したことを伝えたい

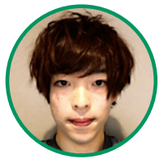
特集

地域の課題を解決するために、様々な立場の人たちがコラボレーションする取り組みをご紹介します

未災地で芽吹く、東北で培われた防災の種 ～本音で話し合うことで実現する協働～

高知県では、南海トラフ巨大地震によりマグニチュード9.0、震度6弱～7、最大34mの津波が発生し、人的被害は死者11,000人にのぼると想定しています。そのため各自治体では様々な災害対策が行われています。高知県の中西部に位置し、太平洋に面する須崎市を舞台に、被災地仙台の大学生と須崎市の人々による防災の取り組みを紹介します。

命を諦めてほしくない



東北大学
災害伝承プロジェクト“もしとさ”
代表 辻壹万（つじ かずま）さん

×

自主防災の意識向上を図りたい

高知県須崎市市議会議員
松田健（まつだ たけし）さん

×

自助の最大化によって人的被害を最小化したい

高知県危機管理部南海トラフ地震対策推進須崎地域本部
地域防災企画監 豊後彰彦（ぶんご あきひこ）さん

「自分の命は自分で守る」を目指して

仙台の学生団体、東北大学災害伝承プロジェクト“もしとさ”（以下、“もしとさ”）と、高知県危機管理部南海トラフ地震対策推進須崎地域本部（以下、須崎地域本部）、高知県須崎市市議会議員の松田健さんは、2018年6月から、協働で住宅の家具固定や住民の防災に対する意識調査に取り組んでいます。目的は、自主防災意識を向上させ、人的被害を最小限にすることです。

“もしとさ”は、2017年に東北大学のボランティア活動支援センターの有志が集まり発足。東日本大震災で得た知見を未災地（※）に伝承する啓発活動をしています。代表の辻壹万さんは、「東日本大震災を経験した人々の『私たちと同じ思いをしてほしくない』という想いを届けたい」と話します。

災害対応の主体は各自治体です。須崎地域本部では、市町の防災活動に対する補助金申請や避難所マニュアル作成の支援などをしています。松田さんは、議員として市政の活動に尽力する一方、地域の自主防災会長を担い、地震による人災を防ぐために水害対策やインフラ整備に取り組んでいます。

対話から生まれた地域に即した防災対策

協働の始まりは、2018年5月。当時の“もしとさ”の代表者らが「未災地で防災啓発活動をしたい」と、高知県庁に相談を持ち掛けたことでした。県庁から相談を受けた地域防災企画監の豊後彰彦さんは学生たちと電話で話すうち「任務とリンクする部分がある」と、連携を決意。豊後さんから協力の相談を受けた松田さんは「被災地の学生の想いや経験が須崎市民の意識を変える良いきっかけになるのでは」と参画しました。

須崎市には高齢者の一人暮らしが多く、住民宅の家具固定が進んでいないこと、避難経路沿いのブロック塀や空き家の倒壊問題など様々な課題がありました。そこで、まずは住民宅の家具固定に取り組むことに。学生たちは地元防災士の協力を得て家具固定のノウハウを学び、松田さんと豊後さんは事前に家具固定が必要な一人暮らしや高齢者宅に声をかけました。2019年2月、学生たちは戸別訪問し家具固定をして回ることができました。辻さんは「活動をしながら、現地の人たちが防災に対してどう思っているのかを聞くいい機会にもなった」と振り返ります。

このように地域に即した防災対策を協働で実現するため、豊後さんは「学生たちと本音で話し合える環境づくりを意識した」と話します。学生たちは、資金調達に苦戦しながら何度も須崎市を訪問。辻さんは「東日本大震災で起こった事例を押し付けたくなかった」と、現地での対話を大切にしました。また、豊後さんは「公共性・公益性において、担い手は行政であり、住民はサービスを受け取る側という二元論的な考え方がある。しかし、公共の領域に学生を含めた市民が施策の意思決定等に関わる一元的要素を組み込むことに大きな意味を感じている。多様な人たちと事業を共にするうえで、行政はもっと“話し合いの技術”を身につける必要がある」と、日頃の思いを語ります。

「自助」・「共助」・「公助」の連携を目指して

松田さんは「今後も自然災害を自分事として考えてもらえる機会を増やしていきたい」と意気込みます。しかし中には「津波が来たらもう逃げられない」という住民の声も。辻さんは「災害が起きる前から命を諦めてほしくない」と、活動の原点を噛み締めます。自助力向上は、地域で支え合う共助にもつながります。今後も、多くの命を守る地道な取り組みは続きます。（取材・文　松田 照子）

※未災地：まだ被害に遭っていないが未来に被災する可能性がある地域のこと

●東北大学災害伝承プロジェクト “もしとさ”
〒980-8576　仙台市青葉区41　東北大学課外・ボランティア活動支援センター気付
Twitter @moshitosa
●高知県危機管理部南海トラフ地震対策推進須崎地域本部
〒785-0005 高知県須崎市東古市町6－26　TEL 0889-42-0510

活動に役立つ書籍をご紹介します

お役立ち本

仮設のトリセツ ～もし、仮設住宅で暮らすことになったら～

著者：岩佐 明彦 新潟大学岩佐研究室 出版社：株式会社主婦の友社

新潟大学工学部 岩佐研究室の学生が仮設住宅での暮らしを調査し、少しでも快適に生活するための知恵をまとめた「仮設住宅の取扱説明書」です。様々な工夫の実例が写真付きで紹介されています。現在も台風19号の被害により多くの人たちが仮設住宅での生活を余儀なくされています。たとえ仮の住まいでも「どこか一息ホッとできる場所であって欲しい」そんな気持ちが詰まっています。

活動を始める一歩を応援します

コトハジメ

障がいのある子どもたちとの楽しい時間を作るボランティア

アフタースクールぱるけは、障がいのある子どもたちの放課後支援をしています。ラグビーワールドカップにちなみ、子どもたちと様々な国の文化や食に触れる食育や缶ボッチャ、ファウストボールなどぱるけのスポーツ活動にも力を入れています。

●活動日時：曜日、時間要相談　●募集対象：子どもたちと楽しく活動したい人、将来障がい児分野で働きたい人など
認定NPO法人アフタースクールぱるけ　〒981-0933
仙台市青葉区柏木1-7-37　柏木鈴木ハイツ1（法人事務所）
TEL　022-778-8666　Mail　npo-paruke@paruke.com

サポセンスタッフ 小田嶋くるみの突撃レポート！

取材団体名 / 伊達忍者「一の草」

乱世に暗躍した忍者 宮城にも実在したことを伝えたい

連絡先
代表 蒼月（大澤 美樹子）さん
Mail ichinokusa91@gmail.com
HP https://www.facebook.com/DateNinja/

▲「ゲームや映画の忍者描写も魅力の一つ。楽しく体験してもらうことで、その先を知ってほしい」と話す蒼月さん（中央）

皆さんは、伊達政宗お抱えの忍者集団「黒脛巾組（くろはばきぐみ）」を知っていますか？伊達忍者「一の草」は、黒脛巾組を現代に伝える活動を行う市民団体です。定期的な勉強会をはじめ、「仙台・青葉まつり」や白石市の「鬼小十郎（おにこじゅうろう）まつり」に、手裏剣や吹き矢の体験ブースも開いています。「忍者と言えば、分身の術が使えたり、ドロンと消えたりといった超人的なイメージが強いかもしれません。でも、そういった多くは昭和以降の創作作品に影響を受けたものなんです」と話すのは代表の蒼月さん。実際の忍術は、「長く走れる息遣い」「解読されない暗号」「敵地で馴染むための方言」等、スパイ活動のための実践的なサバイバル術が多かったようです。

2017年2月22日（ニンニンの日）から本格的に活動を開始。全国の忍者好きの間では「かっこいい！」と人気の黒脛巾組ですが、地元宮城での知名度は低く「もったいない」と感じていたそうです。「忍者や歴史を通じて郷土を見つめるきっかけにもなってほしい」と話します。また、「今日に残る忍者文化は、ワクワクするようなフィクションを含んでこそ。どのような形でも、まずは興味のきっかけになれば」と話します。子どもから外国人まで誰もが知っている忍者。楽しく親しむことも、伝えていく一歩かもしれません。